

移動等円滑化評価会議東北分科会 意見交換会(宮城県)の開催について

1. 意見交換会の概要

- ・移動等円滑化評価会議東北分科会でご意見をいただいていた、「各県ごとの意見交換会」について、宮城県での意見交換会を令和7年7月11日に開催した。
- ・宮城県内の障害者団体等の委員の他、バリアフリープロモーターにもご参加いただき、移動等円滑化に関する取組内容やご意見についてご報告いただいた。

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等①

- ・東北工業大学の中に「認知症の人と環境研究所」という小さな組織を作って仲間と今活動をしている。特に認知症のある人たちのための環境のあり方、施設環境のあり方について研究している。

実際に認知症の方々と仙台の街を歩いて、その方々が気づいたこと、皆さんにとって不自由と感じていること幾つかご紹介したい。

※まちあるきの結果について、写真等の資料を用いてご紹介いただいた(一例)

- 地下鉄から地上に出る前に外の景色が分かる写真があると良い。自分がどこにいるのか、どこに向かっているのかが見えにくいので、そのようなものである程度明示されると、自分が向かうべきところ、向かっているところがはっきり分かって良い。
- 地下鉄の階段の「上り」と「下り」が視覚的に分かりづらいので、メリハリを利かせたサイン等があると良い。
- スーパー等のトイレの場所について、店舗の奥の分かりにくいところにあることが多いので、出入口付近で分かりやすいところが良い。
- スーパー等で買い物の際には、ゆっくりお金を数えたり、出したり出来る専用レーンがあると良い。
また、カートについては、体重をかけると前に進みすぎるし、腰が曲がってしまうので改良して欲しい。空間が広い場所では、ベンチなど一息つける場所が欲しい。
- 歩行者用信号では、時間が短くて渡りきることが出来ないことがあり、「長めの青」になるボタンが欲しい。
- 歩道橋は階段しかないのが不便。(エレベーターがない)
- 色々な案内サインの位置は、床に書いてあると分かりやすくて良い。
- バスに乗るときに、車高が高くて危険なので、自動で降りる台が欲しい。また、Suica等をかざす位置を統一してほしい。
乗るバスによって、その高さや場所が違ったりすることで戸惑う。

(バリアフリープロモーター 石井 敏 様)

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等②

- ・知的障害者は、一人での外出に不安を持つ者が多いため、家族や支援者との外出が多くなっている。公共交通機関の利用についても、券売機の操作がよく分からないなどがあった時に、その対処方法を知ることなどが解決していくと少しハードルが下がってくると考えられる。関係団体向けに、「対応マニュアル」のような資料が提供されていれば、会員向けに配布して、家族の協力の下、外出の機会が増え、社会体験が広がるきっかけになると思う。本会としては、知的障害が外観からは分からない障害という特性があるので、誤解を受けることが多く、行動が消極的になる傾向がみられていることから、「障害理解体験活動」を開催し、障害者の困り感への理解を深める活動を進めている。

(永野 幸一 委員)

- ・仙台市地下鉄南北線車両更新に伴って、ホーム-車両間の段差、隙間が縮小される。多くの障害者団体の皆さんと共に試乗会に参加した。順次車両入替が進み、東西線と合わせて物理的側面におけるバリアフリー度は全国屈指の水準となる。全国に波及するよう期待する。一方でバス路線の減少・減便が進行している。生活の足をどうやって維持していくのが喫緊の課題となっており、コミュニティデマンド交通が代替として導入されつつあるものの、運行車両が車いすでの利用に対応しているのか、など懸念は尽きない。“交通弱者”を交えたさらなる議論が不可欠だ。

(及川 智 委員)

2. 意見交換会での主な取組内容・ご意見等③

・就労継続支援B型事業所の施設長を務めているため、知的障害者に特化したお話しをしたい。

①情報面のバリアフリーの整備 → 地下鉄、市バス、電車等に「やさしい案内」「ピクトグラム」の案内に変える

②多機能券売機にシンプルモード(大きいボタン・音声付)を導入

③公共交通アプリを導入(視覚支援/音声案内)し、行きたいところをアプリに話すと近くの乗り物を提案し「案内」がスタートするナビを開発する

などの整備が考えられる。

私たちのレベルでは実現が不可能なため、仙台市や運輸局の企画実施が重要と考える。

(バリアフリープロモーター 遠藤 邦弘 様)

・宮城県鉄道駅舎等バリアフリー整備事業(県単独事業)を通じて、鉄道事業者が車椅子対応エレベーターを設置する事業に対し市町村が補助を行う事業(市町村助成事業)、または、市町村が車椅子対応エレベーターを設置する事業(市町村設置事業)について、市町村へ1基当たり10,000千円を上限として2分の1を市町村に補助している。これまで、13駅43基に対して補助を実施した。

・毎年度宮城県鉄道整備期成同盟会を通じてJR東日本東北本部へ駅舎のバリアフリー化の促進について、要望を実施している。

(宮城県 企画部地域交通政策課)